

平成 27 年 1 月 30 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

マレーシア サバ州沖深海 R 鉱区におけるサントス社への権益の一部譲渡について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、子会社のインペックス南西サバ沖石油株式会社（以下、同社）を通じて、マレーシア サバ州沖深海R鉱区（以下、本鉱区）において、オペレーターのJX 日鉱日石サバ深海石油開発株式会社（以下、JX）、ペトロナス社の子会社であるペトロナスチャリガリ社（以下、チャリガリ社）とともに探鉱作業を実施しておりますが、このたび、同社保有権益37.5%の一部（10%）をオーストラリア サントス社へ譲渡することについて合意しましたので、お知らせいたします。

なお、サントス社は、JXが本鉱区で保有する権益の一部（10%）を取得することについてもJXとの間で合意しており、これら譲渡手続きが完了した時点でのサントス社の本鉱区における権益比率は20%となります。

本鉱区は東マレーシア沖合に位置し、水深は100メートル～1,400メートル、面積は約672平方キロメートルです。本鉱区が位置する海域は、キケ(Kikeh)油田やガムスット(Gumsut)油田といった大規模油田が発見されるなど、石油・天然ガスの発見が期待できる有望な地域です。また、当社が当社子会社であるインペックス北西サバ沖石油株式会社を通じてオペレーターとして探鉱事業を推進しているマレーシア サバ州沖深海S鉱区（以下、S鉱区）も近傍に位置しています。

本鉱区においては、2012年1月の鉱区取得後、三次元地震探鉱のデータ収録作業および解釈作業を行っています。その評価結果を踏まえ、2015年に3坑の試掘井を掘削し、石油・天然ガスの胚胎の可能性を調査する予定です。

当社とサントス社は、バユ・ウンダンププロジェクトやイクシス周辺鉱区など数多くのプロジェクトを共同で推進しているほか、当社が保有していたS鉱区の一部権益をサントス社に譲渡(*)しています。当社としては、このたびの権益譲渡を通じて、サントス社との関係が一層強化されることが期待されます。

(*) 2014年9月1日に公表。 <http://www.inpex.co.jp/news/pdf/2014/20140901.pdf>

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

なお、サントス社は、オーストラリアをはじめとするアジア・オセアニア地域を中心に石油・天然ガス開発事業を行っており、特にオーストラリアにおいては豊富な操業経験を有しています。

本件による当社連結業績への影響は、軽微であります。

以上

表1：マレーシア サバ州沖深海R鉱区概要

プロジェクト	サバ州沖深海R鉱区	
取得日時	2012年1月17日	
鉱区面積	約672平方キロメートル	
鉱区位置	東マレーシア沖合	
水深	100メートル～1,400メートル	
権益譲渡後の権益保有比率	JX	27.5% (オペレーター)
	同社	27.5%
	ペトロナスチャリガリ社	25%
	サントス社	20%

表2：マレーシア サバ州沖深海S鉱区概要

プロジェクト	サバ州沖深海S鉱区	
取得日	2012年1月17日	
鉱区面積	約574平方キロメートル	
鉱区位置	東マレーシア沖合	
水深	200メートル～1,500メートル	
権益保有比率	インペックス北西サバ沖石油(株)	50% (オペレーター)
	ペトロナスチャリガリ社	25%
	サントス社	25%